

女夫石遺跡発掘調査速報

No.16

埋甕（うめがめ）を紹介します。縄文人は甕を地面に埋めることをよく行っていました。それを埋甕と呼びます。女夫石縄文人もやはり埋甕を作っていました。埋甕は一体何のために作られたのでしょうか？



(上) 埋甕を確認した状況です。土器が埋まっているぞーという状況が良く分かりますよね。最初に見つけた人は感動ものです。

(右) 埋甕が実際にどのように埋められたのかを調べるために地面を掘り下げたところです。渦巻模様の把手（とって）のついた大きな土器が埋められていました。土器の中には別の土器の底を逆さまにして埋めてありました。土器の様子が少しずつ現れる度に、掘っていた人は感動したようです！



- 沢リ：地面に土器が埋まっているみたいだよ？
- マキ：埋甕（うめがめ）っていうらしいよ。地面に穴を掘って土器を埋めるんだってさ。
- 沢リ：女夫石縄文人はなんでそんなことをしたんだろうね？しかも底が抜けているらしいよ。
- マキ：竪穴住居の外にある埋甕はお墓だったという説が有力らしいよ。
- 沢リ：じゃあ、骨とか出てくるのかな？
- マキ：残念だけど、酸性土壌（さんせいどじょう）だから骨はとっくに解けてしまって残っていないみたいだよ。土を理化学的に分析してもなかなか何が入っていたのかは分からないんだってさ。
- 沢リ：じゃあ、底に小さな穴が開いているのはなぜなのかな？
- マキ：亡くなった人の魂の出入り口のための穴だとかいわれることもあるけど、本当のところは縄文人に聞いてみないと分からないね。でも女夫石遺跡だけじゃなくて他の遺跡でも底を抜いた土器や底に小さな穴を開けた土器を地面に埋めている例があるから、縄文人にとっては当たり前の風習だったんだろうね。（つづ）

きれいな模様の付いた土器が地面に埋められたんだね。家の外に埋められているものもあれば、家の中に埋められている場合もあるんだよ。家の外のものお墓で、家の中のものは胎盤をいれるものなんていわれているけど、実際は良く分かっていないだよ。やっぱり縄文時代って奥が深いな！

